

カミフルの魅力に潜入



和服店の店主(左)に店のこだわりや上古町商店街の魅力を取材する慶応大の学生19日、新潟市中央区

商店街研究 慶大生30人

新潟 調査結果を 新ポスターに

商店街など人が集まる場所について研究している慶応大の学生約30人が19日午前、新潟市中央区の上古町商店街を訪れ、調査を始めた。学生たちは約500坪ある商店街を回り、店の魅力や店主のこだわりなどを取材した。調査の結果として商店街をアピールするポスターを作成し、20日には同商店街のアーケードに展示する。

訪れたのは環境情報学 縁で実現した。部の加藤文俊教授(社会学)のゼミで学ぶ2年生から大学院2年生、1泊2日で調査活動を行う。

加藤教授らは、2004年から東京の柴又や浜松市、金沢市など全国約20カ所を訪れた。本県での調査は昨秋、地域活性化の活動を報告する東京のイベントで、加藤教授が上古町商店街振興組合の理事と知り合ったのが

1組で、アーケードに面する各店を「飛び込み」で取材。和服店を訪れた女子学生2人は、商品の品そろえや店内の雰囲気づくりなど経営方針を店主に質問したり、店内を撮影したりして、店の魅力を探った。

4年生の三島麻里江さん(2)と3年生の中田茉夏さん(20)は「関東の商店街より雑貨や洋服の店が多く、おしゃれでアットホーム。商店街の人の魅力が伝わるポスターを作りたい」と意気込んでいた。

学生たちは19日午後まで調査活動を展開。その後、店主らを撮影した写真に、魅力などのキャッチコピーを添えたB5判

のポスターを約60種類作成する。20日午後にはアーケードの柱約140本に張る予定だ。